

久米島ビジョンラボ **結**

～島ぬ3時茶あ会議～

“久米島ビジョンラボ結～島ぬ3時茶あ会議～”は、行政運営を担う役場職員が集い、テーマに沿って島づくりを語り合う会です。



島づくりの成果と課題

生活、産業、自然・環境、

さらにその3つの視点を**統合・調和**する、4つのテーマに分かれて、およそ10年間の島づくりの成果を振り返り、今後めざす島づくりについて語り合いました！

▶ 今後めざす島づくり

生活

- 医療費助成サービスの効果あり。安心した医療体制づくり、医療費の高騰など生活サービスに課題がある。
- 子どもの居場所整備が進んだ。
- 人口減少を共通認識できた。少子高齢化が加速し、独居老人が増えている。
- 住宅不足が大きな課題。
- 町民みんなで意識改革。自立、住民主体の取り組みの強化が必要。

住み続けたい島づくり



- 医療の充実
- 福祉×教育の充実
→きめ細やかで切れ目ない子育て支援
- 働きやすい環境
- 島の環境を楽しむ
- すべての世代が暮らしやすい
・意見交換できる機会
→顔が見える関係作り
・公民館機能拡充
→子ども、大人の居場所

産業

- 【水産】
- 品質の確保→量産化体制の確立、出荷時間の短縮、雇用の創出ができた。
- 原料(資源)不足→原因が特定できない。
- 島内の人材不足が課題。外国人研修生に頼りきり。
- 【観光振興計画】
- 事業者間の連携が取れるようになった。
- DMO組成による経済団体の意識向上。
- 観光人材の不足。
- 2次交通の整備、富裕層客の獲得が課題。

次世代へ継げる島づくり



- 誇れる・見本となる人材(担い手)の発掘
- 深層水の活用
- 久米島ブランドの確立
- 【水産】
- 水産×観光＝遊漁船
- 環境整備 ●新商品開発
- 【農業】
- 担い手づくり ●機械化
- 農業×観光＝農業ツーリズム
- 特産品のブラッシュアップ

自然・環境



- サンゴ保全、赤土流出対策、漂流ゴミ対策など海の環境保全に取り組んだが、効果が見えづらい面もある。
- 景観保全のためにも、空き家の活用、住宅整備が必要。
- 空き家所有者や農家の協力も必要。
- 自然環境教室の実施で子どもの関心が得られた。今後は大人もより関心を向けるような取り組みが必要。

- 農家と連携した営農対策
→農作物の安定生産・出荷
- 危険な空き家の除却
→空き地に新たな住宅を整備
- 海に関する就業者や観光客を巻き込んで海ゴミの対策
→サンゴ・藻場の回復
→水揚量の増加、漁業者の維持
→景観向上、観光客・移住者増

統合・調和



- インフラや公共施設の適正管理。
- DX化による公共サービスの効率化、情報のスピード化、周知拡大が実現。一方、デジタル弱者への対応も必要。
- 交流により既存資源の相互認識が必要。人材育成も強化すべき。
- 暮らし続けるために、島の魅力発信をしつつ、医療・福祉・教育の充実、住宅や雇用の充実が大事。
- 移住定住の支援があるとよい。

ゆたかでうるおう島 ～夢も心も懐も～

- 「挑戦を応援する島」
→起業支援を行う
挑戦を後押しする取組
- 「つむぐプロジェクト」
→地域住民同士や住民と観光客の交流を促進
→人材不足を解決

●開催日程：2024年10月9日9:30～11:30

●参加職員数：17名

●次回は12月に開催予定です！